



平成 29 年 4 月 27 日

上場会社名 第一工業製薬株式会社  
代表者名 代表取締役会長兼社長 坂本 隆司  
(コード番号 4461 東証一部)  
問合せ先責任者 広報 I R 室長 森下 貴之  
T E L 075-323-5951

## 「REACT1000」計画の売り上げ目標補正のお知らせ

現在の 5 年計画が、3 年目の中間年度に入りました。経営の基本戦略と順調な利益項目の目標は変えずに、2020 年 3 月末の売上高水準のみを補正します。

### 1. 3 年目のローリングで体質強化を図ります

2015 年 4 月からスタートした中期経営計画「REACT1000」計画は、2 年が経過しました。おかげ様で、営業、経常、純利益は、3 年連続して最高益を更新できました。ナフサを主とする原料価格が安価な水準にあること、開発した高採算事業が順調に伸びていること、そして、コストダウンの取り組みが功を奏していることが、理由です。一方で、残念ながら売上高は 2 年連続して低迷しました。期待した太陽電池事業の極端な不振と、事業の海外展開への遅れが背景です。

経営計画の副題とした「飛躍への行動」ができていないと判断して、売上高の見直し、ローリングを年初から行いました。これは、行動の革新を論じる作業でした。計画の経営方針、基本戦略と利益目標は不変です。

#### 経営方針

- ① 新しい企業価値の創造  
保有資産の産み出す業績と株式時価の最大化に努める
- ② 誰にもわかる企業像づくり  
企業イメージの認知度の向上を図る
- ③ さらなるガバナンスの深化  
企業統治に意を用い経営の効率化に取り組む
- ④ 適切な ROE 水準の維持と向上  
中長期を展望した ROE 指標を意識する
- ⑤ 協調による優位性の構築  
取引先、大学、団体などと連携し材料と技術の開発を進める
- ⑥ マザー工場の加速と充実  
四日市複合基地構想を柱に全社的な生産性の向上を図る

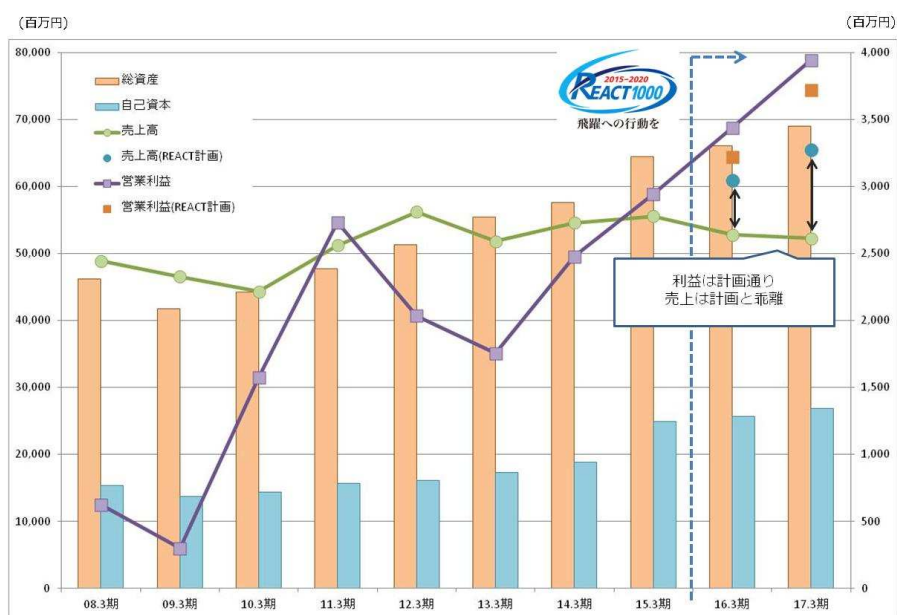
2. 3年連続更新の過去最高利益の維持向上に努めます

社員、株主、顧客、社会 という4つのステークホルダーの視点を意識した基本戦略を一覧にしています。

	社員	株主	顧客	社会
(RETURN) <b>R</b> (還元)	貢献への対応	1000への PER・PBR	アクティブ ・パートナー	経済の好循環
(EXPORT) <b>E</b> (海外)	海外経験者の採用	統合事業報告書	マーケット開発	マザー工場
(ADVANCE) <b>A</b> (前進)	アクチャル100×6	赤字事業撤退	M&A	ブランド
(CREATE) <b>C</b> (創出)	ネクスト100×6	割安株から成長株	特命外交	地方創生
(TRAIN) <b>T</b> (育成)	人材鍛錬	社外役員会議	IT販促	出前授業

REACTマトリクス

掲げている20のテーマに対して、取り組んだこと実行中のものは、18となっています。できていない2つは、売上の柱とした既存事業＝アクチャル100×6と海外のマーケット開発です。この2年間には、霞工場の稼働、自社株式の取得による株主様への還元、統合報告書の発行など、未来づくりの主要インフラは整えてきました。しかし安定した成長を支える売上高拡大に当社の課題があると判断した2年目でした。



業績推移

### 3. 「REACT」の加速で1000への挑戦の前倒しに取り組みます

売上高目標のローリング作業を、1月下旬から3月初旬に行いました。5年計画の最終年度末に実現する目標を750億円から670億円に補正します。これは、不採算事業からの撤退を進めることも意識しています。見直し作業で論じたことは「行動の革新」でした。不確実性の増す経済環境に適応する営業行動のイノベーションです。

それは、1000への挑戦を2025年までに達成する前倒しの行動となります。

	2020年3月期 計画	2020年3月期 ローリング
売上高	750億円	670億円
営業利益	60億円	60億円
営業利益率	8%	9%
純利益	36億円	36億円
ROE	10%	10%
海外売上高比率	20%	20%
設備投資計画	156億円	176億円
露投下資本利益率	10%	10%

ローリング目標値

### 4. 売上高と総資産の各1000億円実現を2025年以前の目標にします

「REACT1000」計画を発表した際に、「新しい第一工業製薬の幕が開きます」として、第三の創業を宣言しました。1909年の蚕繭解舒液の起業を創業とし、1973年に家庭品から撤退し工業品に特化した決断を第二の創業と位置づけました。戦後初の増資、10万㎡の新工場用地の確保、設備投資の実施により、スマート化へ歩む道を第三の創業としたものです。自前主義だけではない、異業種、異業界との連携による優位性づくりです。ユニークさで評価される企業像として「ユニ・トップ」を掲げています。2016年度に総資産は、690億円を計上しました。

総資産と売上高の関係を総資産回転率の指標で見ます。これまでの当社実績でもある1.1倍を超える売上高を意識して、『こたえる化学』を实践して売上高1000億円企業への歩みを加速させます。

以上